

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	国語	科目	文学国語	単位数	4
科目の目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教科書・副教材	新編文学国語（大修館）				
学習上の留意点	(1) 単元試験：単元ごとに試験を行います (2) 課題提出：単元ごとに課題が出されます。締め切り前に必ず出しましょう (3) 小テスト：漢字の書き取り等を行います				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 小テスト 学習課題 50%
思考・判断・表現 【思】	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 小テスト 学習課題 30%
主体的に学習に取り組む態度 【主】	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わることができる	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	学習課題 やる気・態度 提出物 20%

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	文学の扉を開こう	「読むこと」において、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている	文章の内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる【思】 心情を豊かにする言葉を理解できる【知】 修辞などの表現を理解できる【知】
	文学的文章の語り手・視点や場面設定を理解しよう	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈しようとしている	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができる【思】
	作品に表れたものの見方を深めよう	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる【思】
	文章の構成を工夫して書こう	「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しようとしている	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫することができる【思】 読書の意義について理解を深められる【知】
	文章の展開を捉えよう	「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている	文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる【思】 心情の機微を表す語句を使うことで、語感を磨き語彙を豊かにすることができる【知】
	文章を比較して文体や効果を知ろう	「読むこと」において、他の作品と比較して、文体の特徴や効果について考察しようとしている	他の作品と比較して、文体の特徴や効果について考察できる【思】 文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる【知】
後期	修辞(言葉のテクニック)を意識して書こう	「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章にするため工夫しようとしている	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる【思】
	時代背景を踏まえ、生き方を考えよう	「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、解釈を深めようとしている	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、解釈を深めることができる【思】 文学的文章の特徴について理解を深めることができる【知】
	構成や表現を考え、助言を踏まえて書こう	「書くこと」において、文章の構成や展開、表現について、思いが伝わるように書かれているかを吟味し、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章を捉え直そうとしている	文章の構成や展開、表現について、思いが伝わるように書かれているかを吟味し、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章を捉え直すことができる【思】
	解釈の多様性を知ろう	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察しようとしている	文章の構成や展開、表現を踏まえ、解釈の多様性を考察できる【知】
	他の作品と比べて、ものの見方を深めよう	「読むこと」において、関連する複数の作品と比べて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている	関連する複数の作品と比べて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる【知】
情報を集めて「文学」を書こう	「書くこと」において、文学的文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしようとしている	文学的文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることができる【思】	

公民科「政治・経済」	単位数	2
	学科・学年・学級	3-A

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	1	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
	2	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度をうとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。
使用教科書・副教材等	教科書：『最新政治・経済』実教出版 副教材：「演習ノート」実教出版	

2. 学習計画及び評価方法等

月	学習項目	○ 学習課題 ・ 学習活動	評価基準		
			知識・技能	思考・判断・表現	的に学習に取り組む
			■ 評価の方法 小テスト、準拠演習 ノートなど	■ 評価の方法 小テスト、テーマ別 探究プリント、レポート、 発表、準拠演習 ノートなど	■ 評価の方法 活動の様子を観 察、ふりかえり シート、テーマ別 探究プリント、レ ポート、発表 など
第1部 現代日本の政治・経済					
4 ~ 10 月	第1編 現代日 本の政 治	■第1・2編のねらい ・政治と法の意義と機能、基本的人権保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解している。 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについての諸事象を通して理解している。 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	第2編 現代日 本の経 済				

第2部 現代の国際政治・国際経済				
第1編 現代の 国際政 治 第2編 現代の 国際経 済	■第1・2編のねらい <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解している。 ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解している。 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会を担う一員として、現代の国際社会における諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
1 1 ~ 1 月				

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	数学	科目	数学研究	単位数	2単位(週2時間・年間60時間)
科目の目標	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに,事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
使用教科書・副教材	新編数学Ⅰ・新編数学A（数研出版） 副教材なし				
学習上の留意点	(1)問題解決に至る過程の正しさが重要なので,計算・作図などの計算過程はしっかり書くようにする。(記述する力をつけよう) (2)授業用ノートは定期的に提出する。(点検・評価します) (3)学習内容の定着を確認するために,単元テストや小テストを実施する。(確認・評価します)				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能【知】 ・数学ⅠAの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数学ⅠAの内容についての知識が身についている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が身についている。	・数学ⅠAの内容についての知識が概ね身についている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が概ね身についている。	・数学ⅠAの内容についての知識が十分に身につけていない。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が十分に身につけていない。	・単元テスト ・小テスト など
思考・判断・表現【思】 数学全般との相互の関係を改めて考察し,数学の構造を見出し体系化していく力を身に付ける。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が身についている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身についている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が概ね身についている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が概ね身についている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が十分に身につけていない。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が十分に身につけていない。	・単元テスト ・授業での活動 など
主体的に学習に取り組む態度【主】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとしている。	・数学を活用しようとしたり,粘り強く考えることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め,評価・改善をすることができる。	・数学を活用しようとしたり,考えることが概ねできる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。	・数学を活用しようとしたり,考えることが十分にできない。 ・問題解決の過程を振り返って考察をすることが十分にできていない。	・授業への取組 ・課題 ・ノート ・提出物 など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	数Ⅰ 数と式 数Ⅰ 集合と命題 数Ⅰ 二次関数 単元テスト	内容を再確認し、考察していく。	・内容を再確認し、基本的な概念や原理・法則を理解している。【知】 ・数学全般の中の位置づけや相互関係を改めて考察し、問題解決へのプロセスを体系化できる。【思】
	数Ⅰ 図形と計量 数Ⅰ データと分析 数A 場合の数と確率 単元テスト	内容を再確認し、考察していく。	・内容を再確認し、基本的な概念や原理・法則を理解している。【知】 ・数学全般の中の位置づけや相互関係を改めて考察し、問題解決へのプロセスを体系化できる。【思】
後期	数A 図形の性質 数A 整数の性質 単元テスト	内容を再確認し、考察していく。	・内容を再確認し、基本的な概念や原理・法則を理解している。【知】 ・数学全般の中の位置づけや相互関係を改めて考察し、問題解決へのプロセスを体系化できる。【思】
	数学ⅠA 総合演習 単元テスト	学習した内容を統合し、総括的に活用する。	・内容を再確認し、基本的な概念や原理・法則を理解している。【知】 ・数学全般の中の位置づけや相互関係を改めて考察し、問題解決へのプロセスを体系化できる。【思】

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
科目の目標		<p>地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>			
使用教科書・副教材		<p>地学基礎新訂版（実教出版）</p> <p>地学基礎新訂版エブリィノート（実教出版）</p>			
学習上の留意点		<p>(1)授業ノートは定期的な点検・評価します。</p> <p>(2)問題集(書き込み式)は定期的な提出する。(点検・評価します)</p> <p>(3)小テストを実施する。(実力の定着を確認し、評価します)</p>			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準				評価方法
	A	B	C		
	十分理解できる	おおむね満足できる	努力を要する		
知識・技能 【知】	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について十分理解している。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を十分に身に付けている。	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について概ね理解している。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を概ね身に付けている。	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について満足に理解できていない。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を満足に身につけていない。	小テスト
思考・判断 ・表現 【思】	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を十分に習得している。報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを十分に表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を概ね習得している。報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを概ね表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を満足に習得していない。報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを満足に表現することができない。	
主体的に	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり	

学習に取り組む態度 【主】	境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。	境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が十分に養われている。	境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が概ね養われている。	境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が満足に養われていない。
	自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	自然環境の保全に寄与する態度が十分に養われている。	自然環境の保全に寄与する態度が概ね養われている。	自然環境の保全に寄与する態度が満足に養われていない。

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	1章 地球の構成と運動	<ul style="list-style-type: none"> 地球の赤道半径と極半径を扱い、地球が厳密には球でないことを理解させる。 地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解させる。 地球内部の層構造について、地殻、マントル、外核、内核の区分と状態を扱う。また、それぞれの代表的な構成物質についても扱う。 火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させる。 海溝付近の地震を扱い、プレートの収束境界における地震の発生の仕組みを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球内部の層構造とその状態および構成物質について理解している。 火山活動や地震について基本的な知識を身につける 【知】 <ul style="list-style-type: none"> 地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見だし、地球内部の密度や層構造について説明できる。 プレートの分布や移動から、プレート境界に見られる地形の特徴を見いだすことができ、大地形の形成とプレートの運動の関係について考察できる【思】【主】
	2章 大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> 気圧や気温の鉛直方向の変化に関する資料に基づいて、大気の特徴を見いだせて理解させる。 対流圏では雲の発生や降水、成層圏ではオゾン層により紫外線が吸収されること、熱圏ではオーロラや流星が見られることなどを学ばせる。 地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解させる。 大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解させる 年平均の風や海流の分布などの資料に基づいて、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大気の特徴について理解し説明できる。 大気と海洋の大循環について理解する【知】 高度と気圧の関係や高度と気温の関係を示すグラフを作成し、大気の特徴が何をもとに分けられているのか考察することができる。【思】 気圧や気温が高度とともに変化することや大気の特徴について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。【主】
後期	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について理解させるとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について一連の流れを理解する。 地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。 【知】 <ul style="list-style-type: none"> 太陽系の惑星の特徴を理解
	4章 古生物の変遷と地球環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地層や化石に関する観察などを行い、古生物の変遷などに基づいて古生代、中生代、新生代の地質時代が更に区分されることを理解させる。 地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の惑星の特徴を理解

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
科目の目標		・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになる。運動の多様性や体力の必要性について理解できる。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が育つ。健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
使用教科書・副教材					
学習上の留意点		①他の人の動きを見たり、わからないことを聞いたり、互いに教え合ったりする。 ②練習や試合では積極的に参加する。 ③動画、プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④安全に授業を進めるために勝手な行動をしない。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	各種の運動の行い方を理解し、言ったり書いたりしている。また、基本的な動きや技能を身に付けている。	各種の運動の行い方を理解し、基本的な動きや技能が身に付いている。他の生徒に教えたりアドバイスを聞いている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	各種の運動の行い方や技能が概ね身に付いている。わからないことを聞いたりしてわかるうとしている。課題やレポートの作成ができている。	各種の運動の行い方や技能が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	自己の運動の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	自分の課題が何なのか理解し、その解決のためにはどうしたらよいか考え、活動を工夫している。工夫してできたことを他者にわかりやすく伝え、他の意見を尊重することができる。	自分の課題解決のために他者の意見を聞きながら活動を工夫している。自分の意見や考えを深めることができている。	自分の課題が何なのかわからず、活動が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、運動に進んで取り組もうとしている。	運動の楽しさや喜びを味わうために他者のことも考えて積極的に運動に取り組んでいる。レポート等の提出がしっかりとできている。	運動の楽しさや喜びを味わいながら運動に取り組んでいる。レポートの提出ができている。	運動の楽しさや喜びを味わえず、積極的に運動に取り組んでいない。レポートの提出が不十分である。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	①体育理論 ②体づくり運動・体ほぐし運動・体力を高める運動 ③陸上競技(短距離走、長距離走、走り幅跳び)	・主体的に取り組んでいる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている ① ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧	①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。【知】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断するとともに、他者に伝えている。【思】スポーツの特性や発展についての学習に自主的に取り組んでいる。【主】 ②体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組む、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、互いに高め合い、一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】 ③技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。スピードを維持して速く走れる。ペースの変化に対応して走れる。踏切から着地までの動きを滑らかにして跳べる。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、ルールやマナーを大切にしている。自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間	・フェアなプレイを大切にしている	
	④ソフトボール ⑤サッカー	④ ⑤ ⑦ ⑧ ・よい演技を讃えようとしている ⑥ ・互いに助け合い教え合おうとしている ④ ⑤ ⑦ ⑧	④技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。バット、グラブ、ボールの操作を状況に応じて行っている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		
後期	⑥マット運動 ⑦バスケットボール	・自己の責任を果たそうとしている ④ ⑤ ⑦ ⑧ ・話し合いに貢献しようとしている ① ④ ⑤ ⑦ ⑧ ・一人一人の違いを大切にしようとしている	⑤⑥⑧技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。ボール操作と状況に応じたプレーをしている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】 ⑦伝統的な考え方、技の名称や稽古の仕方、課題解決方法や試合の仕方について理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技を用いて攻防している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしている。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間	② ③ ⑥	
	⑧バレーボール	・健康、安全を確保している ② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑨基本的な技を安定して行う、条件を変えた技や発展技を行う及びそれらを構成し演技している。【知】自己の課題を発見し、計画的に取り組み方を工夫するとともによい演技を讃え、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康、安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		⑩表現の仕方、課題解決方法、体力の高め方を理解している。リズムに合わせ、全身を使って表現し、仲間と対応して踊っている。【知】自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて取り組み方を工夫し、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康安全を確保している。【主】

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	英語	科目	論理・表現Ⅰ	単位数	2単位（週2時間、年間60）
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域（以下この節において「五つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。				
使用教科書・副教材	・Big Dipper English Logic and ExpressionⅠ ・ユメタン1				
学習上の留意点	(1) 講義、ペアワーク、作業、発表など様々な手法で学習する (2) 発言や話し合い等には積極的に参加する (3) プリント提出、小テスト等にもしっかり取り組む				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法 割合
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	【L】 話された文等を聞いてその内容をとらえる技能を身につけている 【W】 書かれた文等を読んでその内容をとらえる技能を身につけている 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を身につけている 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を身につけている 【W】 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている	【L】 話された文等を聞いてその内容をとらえる技能を概ね身につけている 【W】 書かれた文等を読んでその内容をとらえる技能を概ね身につけている 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を概ね身につけている 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を概ね身につけている 【W】 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を概ね身につけている	【L】 話された文等を聞いてその内容を捉える技能が十分身につけていない 【W】 書かれた文等を読んでその内容を捉える技能が十分身につけていない 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能が十分身につけていない 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能が十分身につけていない 【W】 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能が十分身につけていない	考査 授業での活動 小テスト など 50%
思考・判断・表現 【思】 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	【L】 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点をとらえている 【R】 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点をとらえている 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている 【W】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている	【L】 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を概ね捉えている 【R】 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要を概ねとらえている 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったり概ねしている 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね話して伝えている 【W】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね書いて伝えている	【L】 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要を捉えられていない 【R】 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要を捉えられていない 【Sや】 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりが十分できていない 【Sは】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることが十分できていない 【W】 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることが十分できていない	考査 授業での活動 パフォーマンステスト など 30%
主体的に学習に取り組む態度 【主】 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	【L】 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞くこととしている 【R】 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読むこととしている 【Sや】 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている 【Sは】 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている 【W】 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	【L】 話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で話されることを聞くこととしている 【R】 書き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で書かれたことを読むこととしている 【Sや】 聞き手、話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている 【Sは】 聞き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている 【W】 読み手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	【L】 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞くこととしているが十分でない 【R】 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読むこととしているが十分でない 【Sや】 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしているが十分でない 【Sは】 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしているが十分でない 【W】 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしているが十分でない	授業への取り組み 課題 ノート 提出物 パフォーマンステスト 20%

年間指導計画

(単元テストの範囲に沿って書いてありますが、授業はできるだけ教科書をカバーできるよう進みます)

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	Lesson 1 はじめに① Lesson 2 はじめに② Lesson3 はじめに③ Lesson4 My friends	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の基本構造 (主語+動詞+…) /itの用法 ・適切な動詞を用いた表現 /there is 構文 ・名詞 (可算・不可算) /冠詞 ・肯定文、否定文、疑問文 	1 日本語で省略される主語などに注意して、英語の文を表現できる。 2 伝えたい内容を、適切な意味を持つ動詞を用い、英語で表現できる 3 名詞が、数えられるか、特定のものであるかなどを意識して英語で表現できる。 4 「～である (ない)」「～ですか (しますか)」などを
	試験 (勉強集中期間)	Part 2 のリスニングについてもレッスンごとに随時やっています	
	Lesson5 My Family Lesson6 Pastime Lesson7 My Town	<ul style="list-style-type: none"> ・現在・現在進行形 /過去・過去進行形 ・未来表現 ・現在完了、過去完了形 	5 「～する (している)」「～した (していた)」などを英語で表現できる。 6 未来に行くことについて、英語で表現できる 7 現在・過去における完了・継続・経験の意味を英語で表現できる
後 期	Lesson8 Our teachers Lesson9 Visiting a Museum Lesson 10 Famous People Lesson11 Reading	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞① ・助動詞② ・文型 ・受け身 	8 能力・許可・推量などの意味を英語で表現できる 9 必要・義務や、過去についての推量・後悔などを英語で表現できる。 10 文型を意識しながら、典型的な文を使って表現ができる。 11 受け身を使った文で表現ができる
Lesson12 Studying Abroad Lesson13 Advice Lesson14 Hobbies	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞① ・不定詞② ・動名詞 	12 不定詞の名詞的、形容詞的用法を使って表現ができる。 13 不定詞の副詞的用法を使って表現ができる。 14 動名詞を使って表現ができる	
	試験 (勉強集中期間)	★テスト後教科書残りの部分	

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	商業	科目	簿記	単位数	4単位（週4時間・年間140時間）
科目の目標		(1)企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技能を習得し、簿記の基本的な役割と仕組みについて理解する。 (2)ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につける (3)キャリア教育の有効的で実践的な手段として、資格取得に挑戦する。			
使用教科書・副教材		新簿記（実教出版） 反復式簿記問題集全商3級（実教出版）			
学習上の留意点		(1)教科書だけでなく、問題集および自作のプリント教材を活用して学習します。 (2)電卓、定規、赤ボールペンは必須となります。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法	
	A	B	C		
	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する		
知識・技能 【知】	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の歴史、簿記の前提条件について、その知識・技術を身に付けている。	簿記の定義および目的を企業の経営活動との関連できちんと理解している。簿記の種類および歴史に関する基本的内容をきちんと理解し、簿記の前提条件については、具体的に理解している。	簿記の定義および目的を企業の経営活動との関連でおおむね理解している。簿記の種類および歴史に関する基本的内容、簿記の前提条件については、おおむね理解している。	簿記の定義および目的を理解していない。簿記の種類および歴史に関する基本的内容、簿記の前提条件について理解していない。	定期試験 小テスト 学習課題 問題集取組状況 授業取組状況 など
思考・判断・表現 【思】	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の歴史、簿記の前提条件について、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。	簿記の定義および目的、簿記の前提条件について企業の経営活動に関連付けて思考・判断してきちんと説明できる。簿記の種類および歴史については、その基本的な内容をきちんと説明できる。	簿記の定義および目的、簿記の前提条件について企業の経営活動に関連付けて思考・判断しておおむね説明できる。簿記の種類および歴史については、その基本的な内容をおおむね説明できる。	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の歴史、簿記の前提条件について思考・判断したり、それを表現したりする仕方を身に付けていない。	定期試験 小テスト 学習課題 問題集取組状況 授業取組状況 など
主体的に学習に取り組む態度 【主】	各章または単元の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協力的に取り組む態度を身に付けている。	簿記の定義、目的、種類、簿記のについて自ら意欲的に取り組み理解しようとしている。また、簿記の前提条件についてプリントをもとにノートにまとめるなど主体的に取り組んでいる。	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の前提条件について理解しようとして取り組んでいる。	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の前提条件について理解しようとして取り組む態度が見られない。	定期試験 小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	第1編 簿記の基礎 第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と 貸借対照表 第9章 決算	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意味・目的を明らかにして、記帳の重要性を理解させる。 ・簿記の種類、前提条件など簿記のアウトラインを理解させて、簿記の学習の心がまえを養う。 ・全商簿記検定4級と同等の関連知識と、記帳技術の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・資産、負債、純資本と貸借対照表 ・収益、費用と損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・仕訳帳と総勘定元帳 ・試算表 ・6桁精算表 ・決算 	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意義と重要性について考え説明することができる【思主】 ・簿記に関心を持ち、意義や役割を考え理解する【思】 ・簿記の役割を理解し活用するための知識や技術を身に付けている【知】 ・帳簿組織に関する知識を理解し目的と概要を説明できる。【主】 ・帳簿から企業のおおよその財政状況と経営成績を明らかにすることができる。【知思主】
	中間単元試験		
	第2編 取引の記帳 第10章 現金・預金などの取引 第13章 手形の取引	<ul style="list-style-type: none"> ・全商簿記検定3級と同等の関連知識と、記帳技術の習得を目指すために、3分法を中心とした取引について学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・現金、預金などの取引 ・商品売買の取引（3分法） ・掛け取引と貸し倒れの処理 ・手形の取引 <p>※各種の出納帳、仕入帳、売上帳、商品有高帳、の記帳技術の習得を目指す</p>	
後 期	第14章 有価証券の取引 第18章 販売費と一般管理費	<ul style="list-style-type: none"> ・全商簿記検定3級と同等の関連知識と、記帳技術の習得を目指すために、各種の債権・債務について、その記帳方法や違いなどを理解させる。 ・固定資産の意味と種類と記帳方法を理解させる。 ・個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳方法を理解させる。 ・引出金勘定を用いた場合の記帳方法と、所得税と住民税の納付について記帳方法を理解させる。 ・販売費及び一般管理費の意味と記帳方法、個人企業に課せられる税金と消費税の記帳方法を理解させる。 	
	中間単元試験		
期	第3編 決算～第4編 会計帳簿 第19章 決算整理 第23章 伝票	<ul style="list-style-type: none"> ・全商簿記検定3級と同等の関連知識と、記帳技術の習得を目指すために、決算処理と検定試験に準じた総合演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・決算整理の手順と仕訳 ・8桁精算表 ・総勘定元帳の締め切り ・仕訳帳、貸借対照表、損益計算書の作成 ・3伝票の記帳と転記 ・得意先元帳の作成 ・総合演習（検定試験形式） 	
	期末単元試験		

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション	単位数	2単位（週2時間・年間70時間）
科目の目標		(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
使用教科書・副教材		ビジネス・コミュニケーション			
学習上の留意点		(1)教科書を中心とした座学形式で学習しますが、Classroomも設定します。 (2)前半は実社会で実用性の高い資格取得である、電卓検定の学習をします。 (3)プリントを配布しますので、フラットファイルを用意してください。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を概ね理解しているとともに、関連する技術を概ね身に付けている。	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を理解しておらず、関連する技術も不十分である。	小テスト 学習課題 授業取組状況 など
思考・判断 ・表現 【思】	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養おうと努力している。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて解決する力が不十分であり、工夫も見られない。	小テスト 学習課題 授業取組状況 など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築する態度を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築する態度を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築しようとして努力している。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識できず、当事者としての意識が不十分であり、他者と信頼関係を構築する態度が見られない。	小テスト 学習課題 授業取組状況 など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	ビジネス電卓実務検定学習 1 基礎知識と基本入力 2 見取算問題の解法 3 除算・乗算の解法 4 ビジネス計算問題の解法 5 能力検定と実務検定の演習	1. 実社会で実用性の高い資格取得を目指す 2. 他団体主催検定試験への対応	・資格取得に必要な基礎知識を理解する。(問題演習)【知】【思】 ・基本計算を初歩段階から学習することにより、計算用具の活用技術を習得する。(問題演習)【知】【主】 ・習熟度別に分けた演習問題に取り組むことにより、自分のペースで着実に計算技術を習得する。(取組状況と小テスト)【知】【主】
	勉強集中期間		
	1編 1章 企業の組織と人間関係	1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進行方法 3. 仕事に対する心がまえ 4. 人的ネットワークの構築	・組織の構造と意思決定の関係を理解する。(問題演習)【知・思】 ・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。(行動観察)【知・思・主】 ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。(行動観察)【知・主】 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。(行動観察)【知・思・主】
勉強集中期間			
後期	2編 2章 応対に関する ビジネスマナー	1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のこなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客の応対 6. 電話の応対 7. 席次のマナー	・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。(行動観察) ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。(行動観察) ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。(行動観察) ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。(行動観察) ・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。(ロールプレイング)【知・思・主】
	勉強集中期間		
	3章 交際に関する ビジネスマナー 3編 4章 接客に関する ビジネスマナー 5章 コミュニケーションの 役割と思考方法 6章 ビジネスにおける コミュニケーション	1. 交際のマナー 2. 食事のマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性 1. コミュニケーションの役割 2. ディベート 3. ディスカッション	・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解する。 ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。 ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ディベート、ディスカッションの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 すべて(行動観察)【知・思・主】

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	保健体育	科目	生涯スポーツ	単位数	2
科目の目標		・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになる。運動の多様性や体力の必要性について理解できる。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が育つ。健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
使用教科書・副教材					
学習上の留意点		①他の人の動きを見たり、わからないことを聞いたり、互いに教え合ったりする。 ②練習や試合では積極的に参加する。 ③動画、プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④安全に授業を進めるために勝手な行動をしない。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	各種の運動の行い方を理解し、言ったり書いたりしている。また、基本的な動きや技能を身に付けている。	各種の運動の行い方を理解し、基本的な動きや技能が身に付いている。他の生徒に教えたりアドバイスを聞いている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	各種の運動の行い方や技能が概ね身に付いている。わからないことを聞いたりしてわかろうとしている。課題やレポートの作成ができている。	各種の運動の行い方や技能が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	自己の運動の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	自分の課題が何なのか理解し、その解決のためにはどうしたらよいか考え、活動を工夫している。工夫してできたことを他者にわかりやすく伝え、他の意見を尊重することができる。	自分の課題解決のために他者の意見を聞きながら活動を工夫している。自分の意見や考えを深めることができている。	自分の課題が何なのかわからず、活動が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、運動に進んで取り組もうとしている。	運動の楽しさや喜びを味わうために他者のことも考えて積極的に運動に取り組んでいる。レポート等の提出がしっかりとできている。	運動の楽しさや喜びを味わいながら運動に取り組んでいる。レポートの提出ができている。	運動の楽しさや喜びを味わえず、積極的に運動に取り組んでいない。レポートの提出が不十分である。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	①ミニバレーボール ②パークゴルフ	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組んでいる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ・フェアなプレイを大切にしている 	<p>①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。【知】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断するとともに、他者に伝えている。【思】スポーツの特性や発展についての学習に自主的に取り組んでいる。【主】</p> <p>②体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組む、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、互いに高め合い、一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】</p> <p>③技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。スピードを維持して速く走れる。ペースの変化に対応して走れる。踏切から着地までの動きを滑らかにして跳べる。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、ルールやマナーを大切にしている。自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】</p>
	勉強集中期間	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ・互いに助け合い教え合おうとしている ① ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ・自己の責任を果たそうとしている ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	<p>④技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。バット、クラブ、ボールの操作を状況に応じて行っている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】</p>
	③テニス ④スポレック ⑤生涯スポーツ理論	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ・互いに助け合い教え合おうとしている ① ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ・自己の責任を果たそうとしている ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	<p>⑤⑥⑧技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。ボール操作と状況に応じたプレーをしている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】</p>
	勉強集中期間	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	
後期	⑥ユニホック ⑦バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いに貢献しようとしている ① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ・一人一人の違いを大切にしようとしている ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ・健康、安全を確保している 	<p>⑦伝統的な考え方、技の名称や稽古の仕方、課題解決方法や試合の仕方について理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技を用いて攻防している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしている。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康安全を確保している。【主】</p>
	勉強集中期間	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	
	⑧卓球 ⑨生涯スポーツ理論	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	<p>⑨基本的な技を安定して行う、条件を変えた技や発展技を行う及びそれらを構成し演技している。【知】自己の課題を発見し、計画的に組み方を工夫するとともによい演技を讃え、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康、安全を確保している。【主】</p>
	勉強集中期間	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ 	<p>⑩表現の仕方、課題解決方法、体力の高め方を理解している。リズムに合わせ、全身を使って表現し、仲間と対応して踊っている。【知】自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて取り組み方を工夫し、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康安全を確保している。【主】</p>

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	地理歴史科	日本史研究	単位数		4
科目の目標	現代社会の疑問、問題点について、歴史を学び、考え、探究することにより、更にグローバルな社会の仕組みや国内及び国際間の諸問題を鋭く、的確に理解し考察できる資質・能力を育成する。				
使用教科書・副教材	・高等学校 日本史探究（第一学習社） 日本史探究ノート（第一学習社）				
学習上の留意点	常に、問題意識を持ち、それについて考察し探究する意欲と実行力を養成する。				

評価基準・評価方法					
評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準				評価方法
	A	B	C		
	十分理解できる	おおむね満足できる	努力を要する		
知識・技能 【知】	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	評価の観点（知識・技能）について、十分な理解と活動をした。	評価の観点（知識・技能）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（知識・技能）について、理解、行動ともに不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・小テスト
思考・判断・表現 【思】	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（思考・判断・表現）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その取り組みは、不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度 【主】	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・小テスト

年間指導計画					
学期	単元・学習内容	学習のねらい			評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章 原始・古代の日本と東アジア 第1節 日本文化の黎明 第2節 ヤマト政権と律令国家の形成 第3節 律令国家の変容	<p>・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。</p> <p>・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。</p> <p>・古代の国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、古代の日本の国家・社会の展開について理解することをねらいとしている。</p>			<p>・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。</p> <p>・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。</p> <p>・貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。</p> <p>・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。</p> <p>・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。</p> <p>・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の発展と文化の特色を理解している。</p>

	<p>第2章 中世の日本と世界</p> <p>第1節 中世への転換</p> <p>第2節 鎌倉幕府の展開</p> <p>第3節 室町幕府の展開</p>	<p>・平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。・古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、中学校社会科歴史的分野での「大観」して「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。</p>	<p>云の姿谷と文化の特長を理解している。</p> <p>・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している</p> <p>・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。</p> <p>・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解している。</p> <p>・明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。</p> <p>・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。</p> <p>・占領政策と諸改革、日本憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などを基に、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。</p>
	<p>第3章 近世の日本と世界</p> <p>第1節 近世への転換</p> <p>第2節 幕藩体制の確立</p> <p>第3節 幕藩体制の転換</p> <p>第4節 社会の変化と幕府の対応</p>	<p>・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解している。・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。</p> <p>・第5章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、近世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図れる。</p>	
<p>後期</p>	<p>第4章 近現代の地域・日本と世界</p> <p>第1節 近代への転換</p> <p>第2節 近代国家の形成</p> <p>第3節 国際関係の推移と近代産業の発展</p> <p>第4節 第一次世界大戦と日本</p> <p>第5節 軍部の台頭と戦争の長期化</p> <p>第6節 日本の再建</p> <p>第7節 経済の発展</p> <p>第8節 経済大国とグローバル化</p> <p>第5章 現代の日本の課題の探求</p>	<p>・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解することをねらいとしている。</p> <p>・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現すること。近世から近代への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、中学校社会科歴史的分野での「大観」して「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習を行う。</p> <p>・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえることをねらいとしている。</p> <p>・日清・日露戦争、第一次世界大戦については、戦争が及ぼした影響などに着目して、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し、それぞれの講和条件などから、形成される国際秩序と我が国の関わり、近隣諸国、諸地域との関係について確認する。さらに、日清・日露戦争前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配をすすめたことや、第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化を確認するなどの学習をおこなう。</p> <p>・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、近代を展望する仮説を踏まえるとともに、「歴史総合」での学習の成果を活用して、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。その際、大項目AからCまでの前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近現代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。</p> <p>・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。</p> <p>・これまでの学習をふまえて、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりをふまえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習をおこなう。持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が地域社会や身の回りの事象と関連させた主題を設定して探究する。</p>	

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	家庭	科目	フードデザイン（3年選択）	単位数	4単位（週4時間・140時間）
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。			
使用教科書・副教材		フードデザイン Food Changes LIFE（教育図書） 基本マスター フード&クッキングレシピ+成分表 五訂版（実教出版）			
学習上の留意点		(1) 講義、グループ活動、実習、作業など、様々な手法で学習する (2) 発言や話し合いに積極的に参加する (3) プリントファイルを提出し、点検評価を受ける			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
知識・技能 【知】	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的、系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを分かりやすく作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的におおむね理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できていない。 授業内容を発展させた課題・レポートの一部、または全部を作成することができない。	課題 レポート 実習
思考・判断 ・表現 【思】	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の課題や問題を、多面的な視点で考え、解決策を提案することが出来る。	食生活の問題を、自己の視点で捉え、解決策について考えることが出来る。	食生活の課題や問題を十分に理解できない。	課題 レポート 参加状況 実習
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協同的に取り組むことができる。	豊かな食生活とは何かを理解し、自らの課題解決に取り組むことが出来る。	豊かな食生活の必要性を理解し、自らの課題があることを自覚することができる。	豊かな食生活の必要性への理解が不十分である。	課題 レポート 参加状況 実習

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章健康と食生活 ①食事の意義と役割 ②食を取り巻く現状 単元テスト 第2章栄養素と食品 ①栄養素と消化・吸収 ②各栄養素のはたらき ③食品とその特徴 ④何をどれだけ食べる？ 単元テスト 第3章食品の選択と取り扱い ①食品選択のコツ ②食品の衛生と安全 ③食の安全を考えて選ぶ 単元テスト	食の意義と役割、食料自給率の現状を理解する 栄養素の働きや重要性を理解し、どのような食品を選んでいけばいいかを理解する ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。	食の役割や普段食べている食品について知る【知】 栄養学の必要性を理解し、安全で健康的な食生活を営むための方策について考えを深める【知】【思】 安全に食品を扱い、選ぶ能力を身につける。 【知】【思】
後期	第4章調理してみよう ①なぜ調理するのか ②調理操作と調理器具 単元テスト 第5章各国料理とコーディネート ①料理の様式 ②テーブルコーディネート 単元テスト 第6章食育と食育推進活動 ①食育推進の取り組み ②食文化を見つめる ③食と環境について考えよう 単元テスト	おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身につける。 テーブルマナーやテーブルコーディネートを実演できる能力を身につける。 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人とのかわりについて理解を深める。	調理技術を身につける【知】 マナーやコーディネートについて理解し、実践できるようにする【知】 世界に目を向け、環境問題を意識して継続的な食生活を送ることができる 【知】【思】

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	商業	科目	情報処理（2・3学年）	単位数	4単位（年間70時間×2年間）
科目の目標	(1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。				
使用教科書・副教材	情報処理 Prologue Computer（実教出版） 情報処理技能検定試験 表計算 2・準2級問題集（日本情報情報処理検定協会）				
学習上の留意点	(1)Excelなどのアプリケーションソフトウェアを使用し、演題演習等を行います。 (2)実習等はパソコン室で実施します。 (3)Classroomを設定し、追加課題や遠隔授業の送信、検定試験等の案内をします。				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して概ね理解しているとともに、関連する技術を概ね身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して十分に理解しておらず、関連する技術を身に付けていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など
思考・判断 ・表現 【思】	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的に根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、評価・改善している、	・情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、概ね評価・改善している、	情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、評価・改善が十分にできない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協動的に概ね取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協動的に取り組もうとしていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	第1章 企業活動と情報処理 第1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。ICT人材に求められる役割と身に付けるべき能力の概要を理解する。 情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。 企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する。 情報通信ネットワークを理解したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。 個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の意義と重要性について考え説明することができる【思主】 情報システムに関心を持ち、意義や役割を考え理解する【思】 情報の役割を理解し活用するための知識や技術を身に付けている【知】 情報を取り扱う上で守るべき法律を理解し、目的と概要を説明できる。【主】 ビジネスに活用できるソフトウェアの機能を活用することができる。【知思主】 セキュリティ管理に興味を持ち、対策などを考察できる。【知】 【思】
	勉強集中期間		
	第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法	<ul style="list-style-type: none"> 情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。 基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法やデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の重要性について理解し、情報を分析して適切に表現できる。【知】【思】 基本的な操作や関数を理解し、表やグラフを作成する技術を身に付けている【知】【思】 データの分類や整列、検索、抽出ができる【知】 ビジネスに関する問題の発見と解決について自ら学び、主体的・協動的に取り組んでいる【思】 【主】
後 期	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 5節 応用文書の作成 第5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ワープロの利用に関する知識と技術を習得し、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領に関する知識と技能について理解する。 ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解し、基礎的な技法を身に付ける。 各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書の役割や構成要素などについて理解できる【思】 ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、機能などを理解できる【思】【主】 プレゼンテーション活動の意義や役割を理解し、プレゼンテーションの一連の流れや基本的な技法を身に付けている【知】【思】
	勉強集中期間		
期	情報処理技能検定の資格取得 1 表計算の基礎知識 2 関数と計算式 3 熟度別学習	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの操作技術に必要な基礎知識を理解する。 計算式と関数を用いたワークシートの作成技術を理解し、その応用力を学習する。 自己の理解力と学習意欲に応じた教材を用いて、資格取得を目指す。 表計算以外でも、入力スピード検定等の対応も実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表計算の特性を学習し、各取得級に応じた技術と、制限時間内での完成を達成することができる。 希望者は4級～1級までのいずれかの資格を取得する。 高度な関数を理解し駆使することで、効果的なグラフの作成やプレゼンテーションの提示を期待できる。すべて【知・主】